

環境ストレス緩和で、 収量・品質アップ！

「Megafol」は、天然の海藻・植物原料より抽出した各種アミノ酸と輸送タンパク、ビタミン等を豊富に含む、バイオスティミュラント資材です。

乾燥・高温・低温等の幅広い環境ストレスに対する植物の耐性を高め、収量および品質の安定化が期待できます。

**世界60か国で30年間使用されている
注目のバイオスティミュラント資材が日本に新登場。**

イタリアで生まれた新しいバイオスティミュラント※1資材

Megafol

(メガホール)



総輸入元:  三井物産アグロビジネス株式会社

※1: バイオスティミュラントとは日本語に直訳すると「生物刺激剤」。近年、世界中で注目を浴びている新しい農業資材カテゴリーであり、植物の健全さ、ストレスへの耐性、収量と品質、収穫後の状態及び貯蔵などについて、植物に良好な影響を与えるものである。

商品の特微

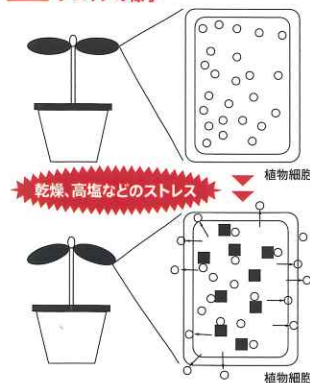
【特長1】 ベタイン(プロリン、グリシン)を含み、乾燥・低温・高温等の環境ストレスを受ける前に、植物が本来有する環境適応能力を高めることで安定した生育を確保できます。

【特長2】 各種アミノ酸(プロリン、グルタミン酸、アラニン、アスパラギン酸、システイン等)とビタミン類を含み、植物の栄養成長と窒素代謝を促進します。

【特長3】 輸送タンパク質を含み、作物への浸透移行性の効果が高い為、葉面からでも有効成分が速やかに吸収されて植物体内へ移行し、バイオスティミュラントとしての効果が発現します。

【特長4】 Megafolと選択性除草剤との混用散布において、薬害が生じた場合でも、浸透移行性が高い為、主要栄養素の吸収促進により、作物の生育回復を早める傾向がみられます。

図1 水ストレス時に植物細胞内に蓄積するプロリンの様子



○: 水分子 ■: プロリン

『蛋白質 核酸 酵素Vol.42No.6(1997)の図1: 水ストレス時に植物細胞内に蓄積するプロリンの様子(共立出版)』より引用

Megafolの使用方法

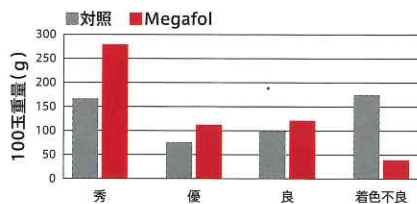
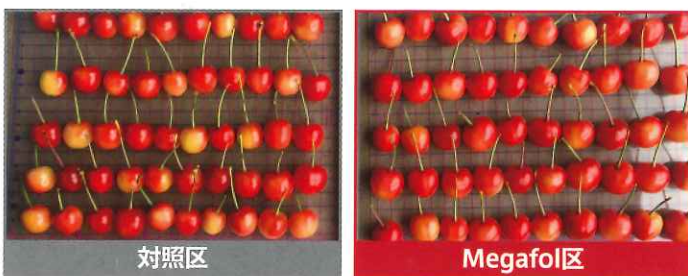
作物の種類を問わずに使用できますが、特に越冬(低温)および夏越し(高温・乾燥)する作型および永年作物である果樹において、増収および品質向上効果が期待できます。

作物名	散布時期	散布方法 (推奨)	散布量 (ml/10a/回)	希釈濃度	散布回数 (回/作期)
果樹類	栄養成長期、開花直前、開花期、幼果期、果実肥大期	葉面散布	200~300	500~1000倍	3~4
蔬菜類	栄養成長期~開花期				2~3
穀類	栄養成長期~開花期				1~2

Megafolの試験事例

① 試験事例: 果樹(青森/サクランボ/佐藤錦)

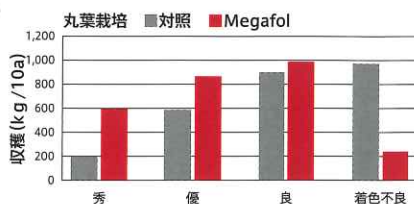
乾燥ストレス軽減の為、開花始期・落花期の計2回Megafolを原液:200ml/10a/回葉面散布し、無処理(対照区)と比較



試験事例 結果
L・M品の増収、着色促進による秀優品率の増加

② 試験事例: 果樹果樹(青森県/リンゴ/ふじ/丸葉栽培・樹齢25年)

乾燥ストレス軽減の為、花蕾露出期、開花直前、落花直後、果実肥大期の計4回、Megafolを原液:200ml/10a/回葉面散布し、無処理(対照区)と比較



試験事例 結果
収量および糖度の向上、着色促進による秀優品率の増加

Megafolの製品概要

肥料の保証成分(%)		EC(ms/cm)	pH(100倍液)	比重	外観	荷姿	その他有効成分
窒素全量	水溶性加里	0.3	6.5	1.22	茶色	1L/本	①ベタイン(プロリン、グリシン) ②低分子の各種アミノ酸(プロリン、グルタミン酸など) ③ビタミン類(B5、PP、B1、B6) ④輸送タンパク質
2.0	6.5						

(備考) 肥料登録番号: 輸第105582号、肥料の種類: 液状複合肥料、原産国: イタリア

使用上の注意事項

- 農薬混用の際は事前に少量混用試験を行い、散布に問題ないことをお確かめください。
- 強アルカリ性資材(銅剤、石灰硫黄合剤)との混用散布は避けてください。
- 幼児の手の届かないところに保管してください。誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- 施肥作業後は、洗顔やうがいをし、皮膚等への付着物を洗い流してください。
- 開封後は短期間で使い切ってください。開封後に保管する場合、直射日光を避けて保管してください。
- 希釈散布溶液を作成した場合、当日にご使用ください。